

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

社会科学 No.3

EBM（根拠に基づく医療）の誕生と限界 —— 数字の医学が見落とすもの

★ 清光学院の講師は、臨床疫学・EBMを専門とする大学教員として、無作為化比較試験（RCT）の設計・解釈を実践してきた当事者です。EBMの強さと限界を研究者として深く知っており、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① EBM・臨床試験を問う医学系の問題

「Evidence-Based Medicineとは何か」「RCTはなぜ重要か」という問いは、医学部推薦・大学院の定番である。EBMの誕生から限界まで知っている受験生は、批判的思考も含めて深い論述ができる。

② 統計・データ解釈を問う問題

「p値とは何か」「相関と因果の違いは何か」という問いは、医学部・理学部の面接・小論文で出題される。EBMの文脈でこれを理解している受験生は、統計的思考の深さを示せる。

③ 「医学の限界」「個別化医療」型の問い

「EBMだけでは患者を診られない理由は何か」という問いは、医学部面接で採点者が受験生の批判的思考を試すために使う。EBMの限界を知っている受験生は、この問いに深みのある答えを返せる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文・面接）	EBM・臨床試験の意義と限界を論じる問題	EBMの誕生から限界まで一本で論じる力がつく
医学部推薦・大学院	研究方法論・統計的思考を問う問題	RCT・p値・相関と因果の理解が深い論述を可能にする
公衆衛生・疫学系学部	集団データと個人医療の関係を問う問題	EBMの限界が個別化医療の論拠を与える
理学部・工学部（データ科学系）	統計的推論・因果推論を問う問題	医学の文脈が統計的思考の実践例を示す

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「エビデンスに基づいた医療が大切です」だけでは採点者に批判的思考がないと映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）EBMの誕生と意義を科学史として語る、（2）RCT・p値・相関と因果の関係を自分の言葉で説明できる、（3）面接でEBMの限界と個別化医療の必要性を論理的に語る、という変化が起きる。

臨床疫学を専門とする清光学院の講師陣は、医学系入試でEBM問題の「表層的な答案」と「批判的思考を含む答案」の評価の差を採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。